

## 以民為天とチュチェ思想

新聞『デイリー・フォーク』編集長  
M・ジャハンギル・カーン

朝鮮民主主義人民共和国の永遠な領袖である金日成主席は「人民のなかに入ろう！」を国と人民のための革命闘争の初期から自らの座右の銘、信条としました。

金日成主席の接見を受けた日本共同通信社の責任主筆は、朝鮮民主主義人民共和国指導者の百科全書的な知識に感嘆を禁じえませんでした。

金日成主席は、自身は常に労働者、農民のなかに入って話を交わす、そのとき、彼らから立派な意見を聞くことができる、人民のなかに入れば主觀主義におちいらない、人民は自身の教師であると述べました。

金日成主席は一生を人民のための現地指導にささげました。

1956年12月末、主席は国の西部に位置している降仙製鋼所（現在の千里馬製鋼連合企業所）を訪ねました。当時、国の情勢は厳しいものがありました。敵対勢力の侵略策動は極に達し、朝鮮労働党内の分派分子らが大國主義者を後ろ盾にして党の指導部に挑戦してきました。

金日成主席は当時、倉庫として利用していたある建物の中で労働者たちと席をともにしました。金日成主席は彼らに国の困難な状況について打ち明け、翌年に鋼材1万トンを増産すれば国が一息つけると彼らを呼びかけました。

金日成主席のアピールに応えて降仙の労働者たちは6万トン能力の分塊圧延機で12万トンの鋼材を生産する奇跡を創造しました。

こうして降仙の労働者たちが点じた創造と革新の炎の中に朝鮮民主主義人民共和国で有名なチョンリマ運動が誕生し、全国に広く展開されました。

新たな社会主義的大衆指導方法であるチョンサンリ精神、チョンサンリ方法と新たな社会主義経済管理体系であるテアン（大安）の事業体系も金日成主席が人民と寝食をともにしながら彼らの志向と念願を反映して示したものです。

金日成主席が一生涯、人民のなかにおられながら勝利と前進の道を開くために献身的な労苦をささげたので朝鮮民主主義人民共和国は帝国主義連合勢力の制裁をことごとく粉碎しながら今日の発展を遂げることができたのです。

金正日総書記は次のように述べています。

「世界にたいするチュチェの観点と立場は、人間に世界と自己の運命の主人

としての高度の自覚を抱かせ、自主的、創造的、意識的に世界を改造し、自己の運命を開かせる真の革命的な観点と立場です」

世界にたいするチュチェの観点と立場は人々に世界と自己の運命の主人であるという高い自覚をもたせます。

人々に主人としての自覚をもたせることは世界を認識し、改造する活動を成功裏に行うための先決条件です。

人間はそれが自己の自主的 requirement と利害関係に合致するという自覚をもつときにのみ、自らの責任と役割を全うするようになり、自己の創造的能力を発揮してそれを実現することができます。

世界にたいする人間中心の観点と立場は、人間の利益から出発して世界に対し、人間の活動を基本にして世界の変化発展に対しなければならないということを示すことにより、人々をして世界と自己の運命の主人であるという高い自覚をもたせました。

世界にたいする主体的観点と立場は人々をして世界を成功裏に改造し、自己の運命を開拓するようにします。

人間が世界を改造するか、否かはその担当者である人間がどのように自らの自主性、創造性、意識性を高く発揮するかによって決まります。

世界にたいする人間中心の観点と立場は、人々の認識と実践活動において世界を改造し、成果的に自己の運命を開拓できるようにする道を示しています。

世界にたいする主体的観点と立場は完全に新たな観点と立場です。

従来の哲学は世界観を世界にたいする見解の総体として見なし、それにたいする解答を与えることにのみ没頭しました。

従来の哲学は世界にたいする観点と立場を独自の問題として提起しませんでした。

チュチェ思想の歴史的功績は、世界観の基本内容を新たに革新し、世界にたいする人間中心の観点と立場を独自の体系として解明したことです。

世界にたいする主体的観点と立場が解明されることにより、世界にたいする観点と立場が哲学的世界観の独自の構成要素となり、すべての認識と実践活動の根本目的と方途が人間を基本にして新たに解明されました。

金日成主席が一生涯、座右の銘とした「以民為天」は、チュチェ思想を創始する上で根源となりました。

「以民為天」は人民を世界でもっとも有力で貴重な、全知全能の存在としておし立て、すべての問題を人民を信頼し、彼らに依拠して解決し、すべてを人民のために奉仕するという崇高な理念を込めています。

金日成主席の一生は「以民為天」を座右の銘とし、それを思想と指導に具現して現実化した人民の領袖の崇高な一生でした。

金日成主席にとって人民大衆は常に自身が高く奉じるべき親しい教師であり、神でした。人民のなかに入ることから革命活動を始めた金日成主席は常に人民のなかにおられ、彼らの自由と解放のためにすべてをささげました。

金日成主席は「以民為天」を座右の銘とし、困難かつ複雑な朝鮮革命の新たな道を開拓し、その過程にチュチェ思想を創始しました。

仁徳政治は人民大衆が国家と社会管理の主人としての地位を占め、役割を果たすようとする政治方式です。

仁徳政治は人民大衆の意思と要求を反映してすべての路線と政策を立て、彼ら自身の活動に転換させることにより、彼らがそれを実現するための闘争に主人らしく参加するようにします。仁徳政治は実際、人民大衆に貴重な政治生活と幸福な物質文化生活を保障することにより、彼らが党と領袖の愛情と信頼に報いるために国家と社会管理で高い革命的熱意と創造力を發揮するようにします。

私は朝鮮民主主義人民共和国が金日成・金正日主義を具現して社会主义強国の建設と祖国統一偉業の遂行において勝利を収めるだろうと確信します。